

# Dream21

vol.59

## 三重県議会 第114代議長に 就任しました。



5月16日の本会議で、三重県議会第114代議長に就任しました。新政みえのみならず、自由民主党会派や少数会派の皆様にもご支援頂き当選させていただきました。歴史と伝統ある三重県議会の議長を務めることは大変、光栄なことであり感謝です。

三重県議会は、5年前に私が県議会に戻り、新政みえ代表になった時に、第一会派と第二会派が対立するのではなく、協議を重ね、知事と対峙し、政策論争をすることが、二元代表制の本質であると考え、多くの議員の共感をいただき今日に至っています。このことは全国的には非常に珍しく、私はこんな三重県議회를誇りに思っています。このような歴史の中、今年度は、私が議長を務めることとなりました。

議長職は、県議会の議事運営の責任者としての仕事はもちろんのこと、県内各市町や各業界団体との付き合いなど多岐に渡り、県内各地を飛び回っています。また全国議長会の活動をはじめ、他の都道府県議会との交流や連携、国の各機関との協議など様々な活動があります。多くの新しい出会いと、ネットワークが広がり、貴重な経験をさせていただいています。

非常に重責ではありますが、全力を尽くして参ります。今後とも変わらぬご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

三重県議会議長 稲垣昭義

### いながき昭義のSNSフォロー・YouTubeチャンネル登録をお願いします

◆いながき昭義公式ブログ「初心、継続。」  
政策・活動報告などを発信



◆音声プラットフォームVoicy  
不定期に朝6時から10分間、音声配信



◆いながき昭義公式X(旧Twitter)  
私の考え、素朴な感じたことを毎日発信



◆いながき昭義YouTubeチャンネル  
選挙や活動動画の履歴配信



◆いながき昭義公式Instagram  
ワインエキスパートとして発信



◆いながき昭義ホームページ



#### ◆個人献金のお願い◆

いながき昭義の政治活動は皆様の個人献金によって支えられています。勝手なお願いで恐縮ですが、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

尚個人献金は、寄付金控除の対象となります。  
三十三銀行本店 1804244 いながき昭義政経情報交換会  
百五銀行生桑支店 397102 いながき昭義政経情報交換会

### ◆全国初!三重県とインドネシアが介護・看護分野の相互連携協定締結



保健省議長訪問

7月29日に、インドネシア保健省のアリアンティ・アナヤ保健医療人材総局長はじめ11名が三重県議会と県庁にお越しいただき、インドネシアと三重県の間

で、介護・看護分野における人材育成、交流に関する協定が締結されました。これは全国初の取り組みです。

昨年12月に、インドネシア保健省のオース保健医療人材局長が来県され、インドネシア政府としては、介護・看護分野の人材育成を行いたいこと、三重県としては、特に介護人材が不足していることといった課題について知事と協議をいただきました。その後、約半年かけて、インドネシア保健省と本県で事務的な協議を重ね、今回の協定締結に至りました。

インドネシアの人口は世界第4位の2億7800万人で、年齢層別人口ピラミッドを見ても非常に若い国です。今後更に、人口も増え、経済成長が期待されることから、人口が減少し、超高

齢化社会を迎えている日本にとっては非常に魅力的な国です。このようなインドネシアと三重県が今後更に連携を強化していくことは非常に意義深いと考えます。

8年前に私は、県議会議員を辞して、四日市市長選挙に挑戦しましたが、敗れました。その後、介護や医療の分野の様々な仕事のご縁をいただきましたが、中でも、四日市の介護事業所や専門学校が、インドネシアから技能実習生や留学生を受け入れる体制を作るなどの仕事に関わりました。今日まで、インドネシアは3回訪問し、個人的には非常にご縁がある国です。



アリアンティ・アナヤ保健医療人材総局長と懇談

今回の協定に至るまで様々な不思議なご縁を感じますが、この協定をスタートに、インドネシアと三重県の関係が更に強固なものとなり、お互いにとって有意義な交流が深まることを期待しています。

### ◆全国議長会の活動スタート

全国の議長のネットワークは、47都道府県議会の議長で構成される全国都道府県議会議長会の定例会総会が毎年7月に開かれ、新しい年度の活動がスタートします。またそれ以外にも、地域や政策課題ごとの議長会が存在し、この時期に合わせて会議が行われます。三重県議会も様々な議長会に所属しており、私は7月に上京した2日間だけでも下記の会議に出席しました。



全国都道府県議会議長会総会

□全国都道府県議会議長会定例会総会

(三重県議会は、東海北陸7県議長会・近畿2府8県議長会にも所属)

□半島地域振興対策議会議長連絡協議会総会

□離島振興対策都道府県議会議長会総会

□地すべりがけ崩れ対策都道府県議会協議会総会

□南海トラフ地震による超広域災害への備えを強力に進める10県議会議長会議

これらの議長会で議論が行われ、提言や要望が取りまとめられ、担当省庁への要望活動も行われます。今回私は、東海北陸7県議会の議長と共に、南海トラフ地震対策などの項目を松村防災国土強靱化担当大臣、武村農林水産副大臣、濱地厚生労働副大臣、中野法務政務官を順にまわりお届けしました。

全国議長会での活動もスタートしましたので、三重県の声を全国に届けるため、全国のネットワークでの活動も大事にしていきたいと思っています。

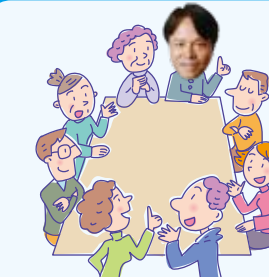


松村防災国土強靱化担当大臣に要望

### ミニ座談会・気軽にお声掛け下さい

ミニ座談会を行っています。皆さんと意見交換を致したく、気軽にお声掛けください。希望日時、場所を事務所までご連絡いただければ駆けつけます。よろしくお祈りします。

また毎月29日を「ふくの日」として、私の事務所にて「ふくの会」を開催しています。定員15名ですが、どなたでもご参加いただけますので、詳細興味があります方は事務所まで連絡をお願いします。



### いながき昭義プロフィール

昭和47年 四日市市東坂部町生まれ 大池中学校・四日市高校・立教大学法学部卒業

平成7年~10年 株式会社三重銀行勤務(現三十三銀行)

平成11年 三重県議会議員選挙出馬(26歳)416票差で次点  
学習塾・パソコン教室・NPO法人などを立ち上げ4年間生活

平成15年 三重県議会議員選挙30歳で最年少当選 以来4期連続当選  
四日市港管理組合議会第45代議長、予算決算常任委員会委員長等を歴任  
三重県手話言語に関する条例検討会座長など多数の条例検討会に携わり、議員提案条例を制定してきた。

平成28年11月 四日市市長選挙出馬 落選  
ユマニテク医療福祉大学 校長他、介護・医療の仕事に関わり2年間生活

平成31年4月 三重県議会議員選挙 5期目当選 新政みえ代表就任

令和2年3月 明治大学大学院ガバナンス研究科修了

令和2年11月 日本ソムリエ協会ワインエキスパート試験合格

令和3年5月 三重県議会第115代副議長就任

令和5年4月 三重県議会議員選挙 6期目当選 新政みえ代表就任

令和6年5月 三重県議会第114代議長就任

趣味：マラソン(令和4年、5年12月松阪フルマラソン完走)、登山、読書、  
ワイン(定期的にワイン会開催中)  
好きな食べ物：餃子、麺類  
尊敬する人物：坂本龍馬  
家族：妻、息子(高3)、娘(中2)、両親

講師 RAUL 株式会社代表取締役／一般社団法人エネルギー情報センター理事 江田健二氏

テーマ 「今から始める！中小企業の脱炭素経営」

～脱炭素がもたらすビジネスチャンスと企業事例～

いながき昭義 未来創造セミナー



【講演内容要約】

SDGsの17のターゲットの内、「7番、エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」「13番、気候変動に具体的な対策を」が脱炭素に深く絡む項目です。SDGsの市場規模は、3000兆円とされていますが、その内、この2項目だけで1000兆円以上の市場規模があります。脱炭素と聞くと「押し付けられた新しいルール」「守らなければいけないもの」といったネガティブな感じがありますが、新しいビジネスチャンスがたくさん生まれるので、関心を持った方がいいと思います。

2023年の世界の気温は、産業革命以前の平均気温を1.4度上回りました。2020年のグリーンズワン報告書では、気候変動が世界経済を壊すと指摘されています。急激な気温上昇が続くと世界経済パニック

のきっかけになるのではとの懸念から世界規模で「脱炭素化」を進める気運が高まってきました。

企業がカーボンニュートラルを進めているかを知りたい金融機関や投資家は、財務情報に加えて非財務情報（経営戦略・経営課題・ガバナンスなど）にも注目しはじめました。お金（投資・融資）は脱炭素を積極的に進める企業に流れるようになってきています。

企業が脱炭素を進める上で、守りと攻めを意識し、両方をバランスよく進めていくことが重要です。

《守り》

いかに自社の脱炭素化が継続的に進む流れを作り、定着させるか

- ・温室効果ガスを見える化し、削減
- ・社員への教育、取引先への要請
- ・再生可能エネルギー導入
- ・運送配送の効率化
- ・製造工程の省エネ化
- ・自社商品の再利用の検討

《攻め》

新たな社会（循環型社会）において自社がどこに力点をおいて戦い、永続的に事業を成長させるか

- ・新製品・サービス展開
- ・M&A、アライアンス
- ・事業領域の再編成



◆次世代太陽光ペロブスカイト太陽電池

脱炭素に取り組む企業の新しい事例として、次世代太陽光ペロブスカイト太陽電池があります。既存の太陽光パネルに比べて厚みが約100分の1で、折り曲げて多様な場所に設置することも可能なため、ビル壁面などこれまで設置が難しかった場所に設置可能となります。製造工程も短縮化される為、製造コストダウンも期待され、主要材料のヨウ素の生産量は、日本が世界の30%（世界第2位）を占めています。

◆AGCのガラスと一体型の太陽光パネル

AGCのガラスと一体型の太陽光パネルは、一般的な合わせガラスと同じ構造で、ガラスが設置できるのであれば設置可能です。ガラスの両面で発電可能（垂直に設置をしても効率よく発電）となります。

◆近畿電電輸送の太陽光リサイクル、リユース事業

将来的に太陽光の大量廃棄が今後社会的な課題になると考え、新規事業として太陽光リサイクル、リユース事業を開始、新規事業への多くの見学や問合せ、メディアでの露出により本業での新規顧客獲得や新たな人材獲得にも寄与している。

いながき昭義後援会

第16回未来創造セミナー開催

江田健二氏 / 稲垣昭義 対談 「脱炭素の未来」



江田健二氏

稲垣議員：SDGsの市場規模3000兆円と言われる中、その内、脱炭素に関する市場規模は1000兆円とのことですが、SDGsにしても脱炭素にしても欧米が先導でルール、方向性を決めているような所があり、その市場での優位性は、欧米各国にあって、今後、日本の企業がその市場規模を活かされるのでしょうか？

江田健二：欧米がルールメイクをしているのはその通りですね。そこには忸怩たる思いがある方が多いと思います。例えば電気自動車関連などは欧米が先行しています。しかし世界全体の市場は大きいので、これからアジアのマーケットを考えると、インドやインドネシアなどが脱炭素を進める中、アジアの国々の脱炭素化に日本が関わるメリットは非常に大きいと思います。例えばヒートポンプなどの技術は日本に優位性があると思います。

稲垣議員：江田さんの著書「2025年脱炭素のリアルチャンス」にチャンスはアジアにあると書かれているのを読ませていただきました。

江田健二：脱炭素に関して、欧米にリードされていることに日本政府も問題意識を持っていて、150兆円規模の投資をすることを決めています。例えば、「ペロブスカイト太陽電池」については、日本が先行して取組む動きになっています。

稲垣議員：ビルの壁面で発電が出来て、その主要材料のヨウ素の生産量は日本が世界シェアの30%を持っているというのは、今後脱炭素の取組みを日本が先導できる大きなチャンスとなりますね。

東日本大震災での原子力発電所の事故以来、再生可能エネルギーを進める流れとなり、三重県もそうですが、メガソーラが増えてきました。しかし、最近感じるのは、山や自然を切り開いてメガソーラ発電をするというのは本末転倒ではないかと思えます。昨年、三重県議会では特別委員会を設置して、メガソーラの問題なども議論しました。

江田健二：メガソーラに関しては政策立案の時にあそこまでやることを想定出来ていなかったのですが、今は政府も徐々に規制を厳しくし始めています。

稲垣議員：近い将来、ソーラーパネルという言葉がなくなって、ペロブスカイトという名前が変わるかもしれませんね(笑)

江田健二：ネーミングって大切ですね。ガラケイからスマホになったように(笑)、ネーミングを含めてゲームチェンジすることって大事ですね。

稲垣議員：もう一つ私が気になった取組が「SAKE-RE100」です。私はワインエキスパートの資格を持っていますが、ヨーロッパではワインはオーガニックが主流になっています。三重県も多くの酒蔵がありますが、日本酒を海外に売り出そうとしている中で、脱炭素で作った酒との売り出し方はいいと感じました。

江田健二：これはどの酒蔵も参加できるプログラムです。日本では日本酒のことはよく知られていますが、海外に売る時にこのようなアプローチはいいと思います。

稲垣議員：脱炭素のお酒っておもしろいですね(笑)。脱炭素には推進派と懐疑的な人がいる中、トランプさんは懐疑的な人という印象があります。米国大統領選挙がどのように脱炭素の取組みに影響を与えるのでしょうか？

江田健二：トランプ政権の時に、パリ協定から脱退をしました。またホワイトハウスのHPから気候変動という言葉がすべて削除しました。トランプ大統領が再び誕生したら米国が脱炭素に足踏みすることになるのはその通りだと思います。しかし米国は州の力が強いので、トランプ政権時でも約20の州は団体を作って脱炭素を進めていました。おそらく今回も、スピードダウンしても前には進むと思います。日本の自動車メーカーにとってはチャンスとなるかもしれません。

稲垣議員：ウクライナとロシアで戦争が起こり、戦争が起こると脱炭素といったきれいごとを言っていられないとの声がヨーロッパで上がっていますが、これについてはいかがですか？

江田健二：ヨーロッパは新型コロナからの復興ということで、グリーンリカバリーとの言葉を掲げていたのですが、ロシアのウクライナ侵攻で止まりました。日本にも電気代高騰といった影響が出ました。2年前は緊急時で脱炭素の取組みが危惧されましたが、今では大きな流れは変わらないようになってきていますね。

稲垣議員：国際情勢の影響は受けますが、大きな脱炭素の流れは変わらないということですね。今日は貴重なお話ありがとうございました。



三重県会議長 いながき昭義